

祈りが難しくなった時に：「散心」と「無味」

(『わたしたちの念祷』第5章)

1) 靈的読書の必要性 (続き)

- ・ 祈りに必要な「栄養」：Vitamin Bible, Catechesis, Faith, Love, etc
- ・ 教えの本、靈性の本、聖人伝、雑誌や教会についてのニュース
- ・ 例 バチカンニュース、教皇の一般謁見 (十戒について)

2) 「散心」と「無味」

テレサの人間学

- ・ 167頁 「想像力 imagination と知性 intelligence と意志 will の区別」
- ・ 外部感覚と内部感覚の区別。

「無味」とは、散心が普通の状態になった、無味乾燥の状態。→「すさみ」靈操の用語
テレサにとってもっともつらかった試練。

3) 散心と無味の原因

- ①超自然的真理；神秘が知性にとって「暗夜」であること。
- ②靈魂の能力が不安定であること。
- ③病氣、病的な性格、氣質。
- ④悪魔
- ⑤神の黙認：謙遜を学び、靈的に成熟するため。

その対策

- ①慎重であること。Prudence
- ②忍耐強くあること。Patience 無味乾燥の念祷の与える光。
- ③信頼に満ちた謙遜。

4) 祈りとは、信仰の行為 (acte of faith) を維持すること。

聖書思想事典による「信仰」を意味する2語

- 1) 堅固・確実を暗示するアーマン (認識の面) →頭
 - ・ 言葉や徴をてがかりにして見えない現実にちかづいていく理性の歩み
- 2) 安心・信頼を連想させるパータハ (意思の面) →心
 - ・ 誠実なある方に全人格を投じて帰依する

ルカ 出血病の女のエピソード (ルカ8. 42-48)